

## 職業感染対策 水痘

### 水痘とは

いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。潜伏期間は、2週間程度（10～21日）で発疹出現1～2日前から出現後4～5日、あるいは痂皮化するまで感染力があります。

水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。小児における重症化は、熱性痙攣、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

\*厚生労働省ホームページ

### 感染経路

空気感染

接触感染

飛沫感染

### 感染対策

#### 空気感染・飛沫感染・接触感染対策

- ・患者は個室（陰圧室）に隔離する
- ・免疫がない曝露者は、72時間以内に水痘ワクチンの接種をすることが発症予防・軽症化に有効
- ・免疫不全患者対応：免疫グロブリン、抗ウイルス薬の併用又は単独投与

#### 法制度

感染症法上：五類定点把握疾患→小児科定点報告

全数把握疾患→入院例は7日以内に保健所に全例報告

学校保健安全法（第2種に分類）：すべての発疹が痂皮化するまで出席停止

\*NIID 国立感染研究所

### 検査

多くは経過や症状の臨症判断、血液検査、PCR検査（水疱ぬぐい液や唾液等）

### 治療

症状に合わせて外用薬（石灰酸亜鉛化リニメント）、抗ウイルス薬（アシクロビル）を投与

### 予防策

小児：ワクチン2回接種

1回目 生後12～36カ月 2回目：1回目の接種から6～12か月後

大人：ワクチン2回接種（4週間以上あける）

\*免疫があるとは、予防接種の記録が2回あるをいう。抗体価（EIA法 4.0以上）

\*医療関係者のためのワクチンガイドライン参照

### 带状疱疹

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経に沿って、典型的には体の左右のどちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みがのこる「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。70歳で発症する形が最も多くなっています。